



2026年4月30日

各 位

会 社 名 株式会社 有沢製作所
代表者名 代表取締役社長 有沢 悠太
(コード番号：5208 東証プライム)
問合せ先 取締役専務執行役員 増田 竹史
(TEL：025-524-7101)

中期経営計画の進捗に関するお知らせ

当社は、2030年3月期を最終年度とする中期経営計画を2025年5月7日に公表し、達成に向けての取り組みを進めております。

つきましては、進捗状況を添付資料のとおりお知らせいたします。

以上

証券コード 5208
株式会社 有沢製作所



中期経営計画

(2026年3月期～2030年3月期)



2026/4/30
株式会社 有沢製作所

目次

I. 基本方針	1 ~ 2
II. 中期経営計画の進捗状況	3 ~ 4
III. 事業戦略	5 ~ 10
IV. 財務戦略	11 ~ 13
V. 参考資料	14 ~ 20



「創造 Create」「革新 Innovate」「挑戦 Challenge」を基本とし

- I 新たな価値を創造し、顧客満足度を高める
- II 顧客ニーズを掘り起こし、独創的な技術で新事業を創出する
- III 品質と生産性を向上させ、企業体質を強化する
- IV 社会・環境課題に取り組み、持続的な成長を実現する

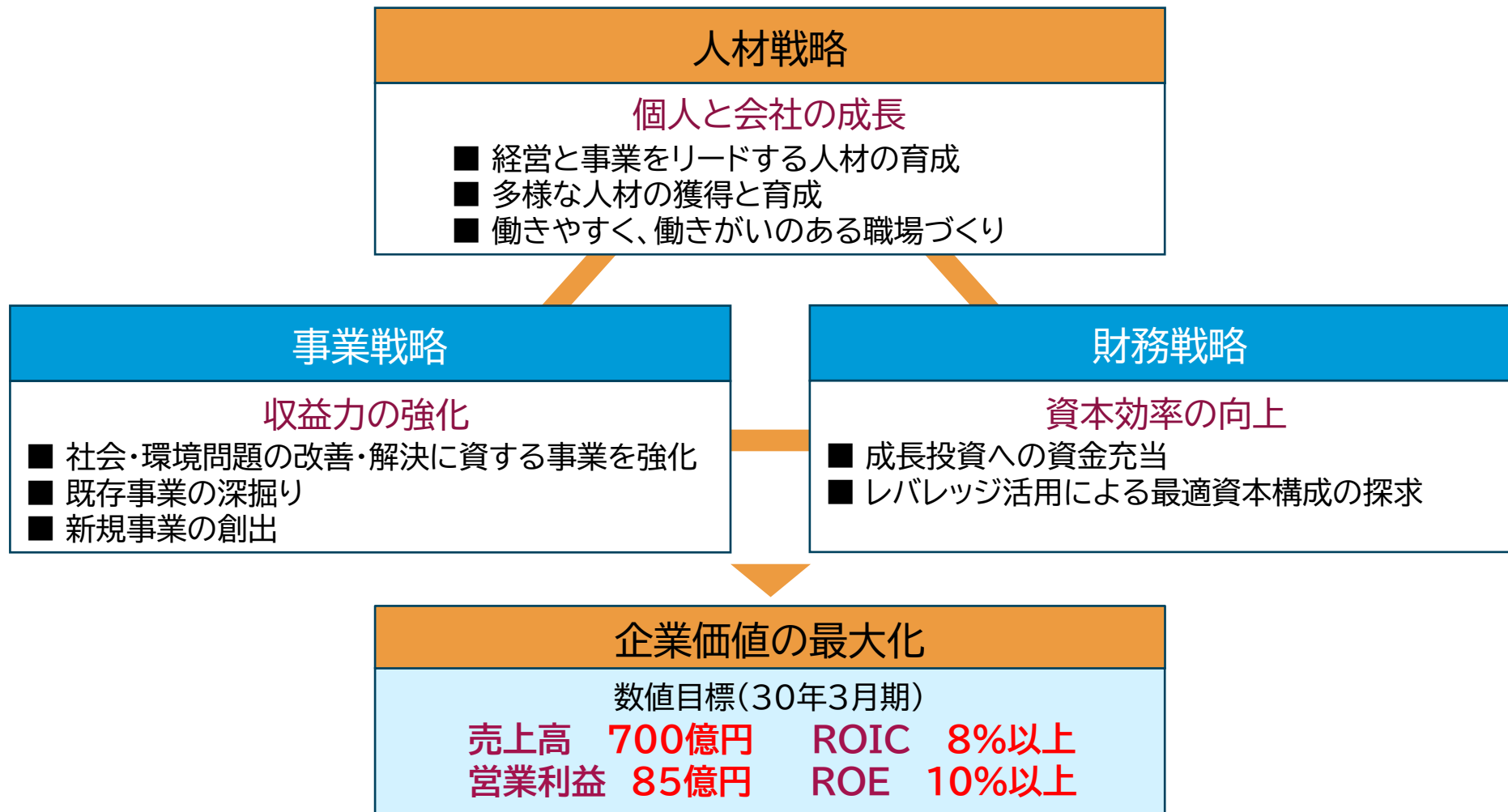
寄せられた顧客の皆様の期待値を少しでも上回り、顧客の皆様に「驚きと喜び」を粘り強く提供し続ける

社会に貢献する製品群



I-2 中期経営計画（26年3月期～30年3月期）

人材を活かし、社会・環境課題に取り組み、事業と財務の両面から企業価値を高めることを目指す



目次

I. 基本方針	1 ~ 2
II. 中期経営計画の進捗状況	3 ~ 4
III. 事業戦略	5 ~ 10
IV. 財務戦略	11 ~ 13
V. 参考資料	14 ~ 20

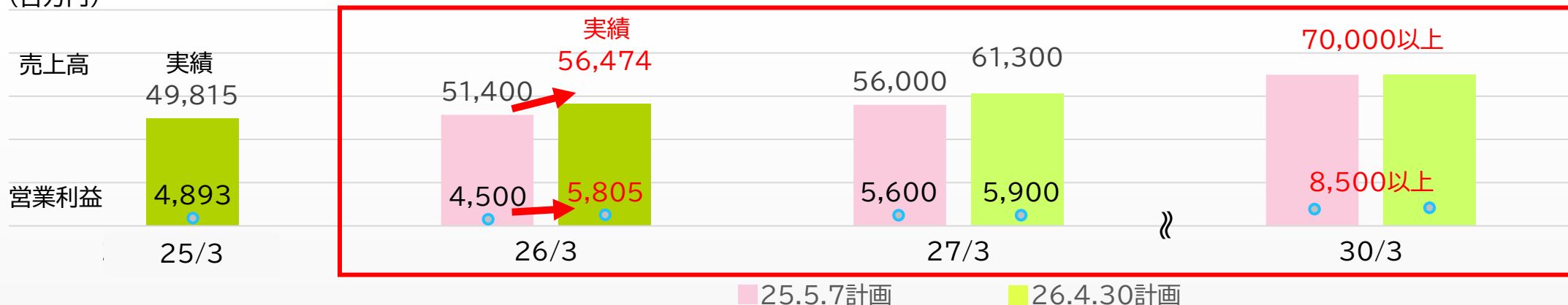
II-1 中期経営計画の進捗状況（連結）

ROIC目標 **8.0% 以上**（30年3月期）

AI需要の拡大に伴う電子材料分野での半導体用材料の増産と、産業用構造材料分野の新エネルギー向け材料の量産開始により増収増益を見込む

- ・26年3月期は、電子材料、産業用構造材料が堅調に推移し、中期計画を上回った
- ・27.3期についても業績拡大を予測しており中期計画を上回る見込み

（百万円）



	25/3	26/3		27/3		30/3	
	実績	25.5.7計画	実績	25.5.7計画	26.4.30計画	25.5.7計画	26.4.30計画
売上高	49,815	51,400	56,474	56,000	61,300	70,000 以上	
営業利益	4,893	4,500	5,805	5,600	5,900	8,500 以上	
ROIC	6.2%	5.6%	6.8%	6.6%	6.5%	8% 以上	
ROE	8.4%	6.6%	10.1%	8.4%	7.9%	10% 以上	

II-2 中期経営計画の進捗状況（事業セグメント）

セグメント	戦略	26/3結果		状況・今後の見込み
電子材料 FPC用材料 ICGC、プリプレグ プリント配線板	独自の樹脂配合と塗工技術を駆使し、高機能材料の開発により成長を目指す	計画 売上高 33,000 セグメント利益(百万円) 3,000	結果 (百万円) 35,882 3,558	・スマートフォン市場、およびAI需要に牽引される半導体市場が堅調に推移したことにより、計画比7.8%増 ・AI関連市場のさらなる成長を取り込むべく、設備投資を計画通り推進する。
産業用構造材料 電気絶縁材料 ハニカムパネル 水処理用 FRP製圧力容器 その他	差異化製品投入により、モビリティ・エネルギー分野の事業化を加速する	13,700 1,900	16,277 3,166	・水処理用FRP製圧力容器の需要が堅調に推移すると共に、ハニカムパネルの需要も回復したことにより計画比16.8%増 ・車載用材料、次世代電池などの新規事業の開発は前進するも、量産化は当初計画より遅れが生じる見込み
ディスプレイ材料 3D関連材料 偏光利用部材	新製品の開発を通じてデジタル社会のさらなる発展に貢献する	4,300 1,300	3,973 833	・3D関連材料は25下期より回復するも偏光利用部材が軟調であったことより計画比11.6%減 ・特殊車両、スマートグラスなどへの採用を目指し、拡販につなげる

目次

I. 基本方針	1 ~ 2
II. 中期経営計画の進捗状況	3 ~ 4
III. 事業戦略	5 ~ 10
IV. 財務戦略	11 ~ 13
V. 参考資料	14 ~ 20


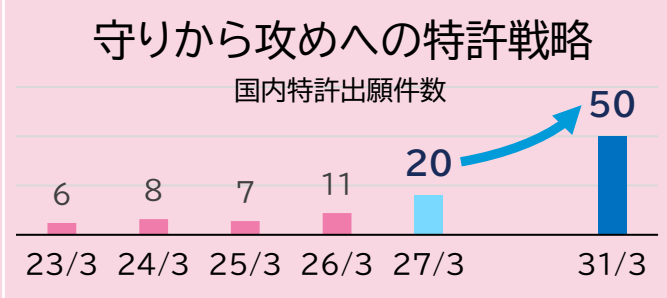
社会・環境問題の解決に資する事業を強化し、
『既存事業の深掘り』と『新規事業の創出』により収益力を強化する

既存事業の深掘り	新規事業の創出
<ul style="list-style-type: none"> ■ 独自技術による差異化製品の開発 ■ 新たな価値の提供 ■ 生産能力および効率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会・環境問題の改善・解決に資する事業 ■ 機動的なM&Aによる事業拡大 ■ 既存技術を応用した新製品開発による事業拡大

<p>● オープンイノベーションの推進</p> <p>新規用途・新市場向け製品開発案件の増加 共創による開発期間の短縮 技術領域・情報取得範囲の拡大</p>	<p>● 知的財産戦略の強化</p> <p>価格競争に陥らない事業構造構築 市場における競争優位の確立 中長期的な技術優位ポジション維持</p>	<p>● グループ会社との協働強化</p> <p>生産効率向上およびコスト競争力強化 グローバル・新規市場への展開基盤整備 開発・投資の重複回避</p>
--	--	--

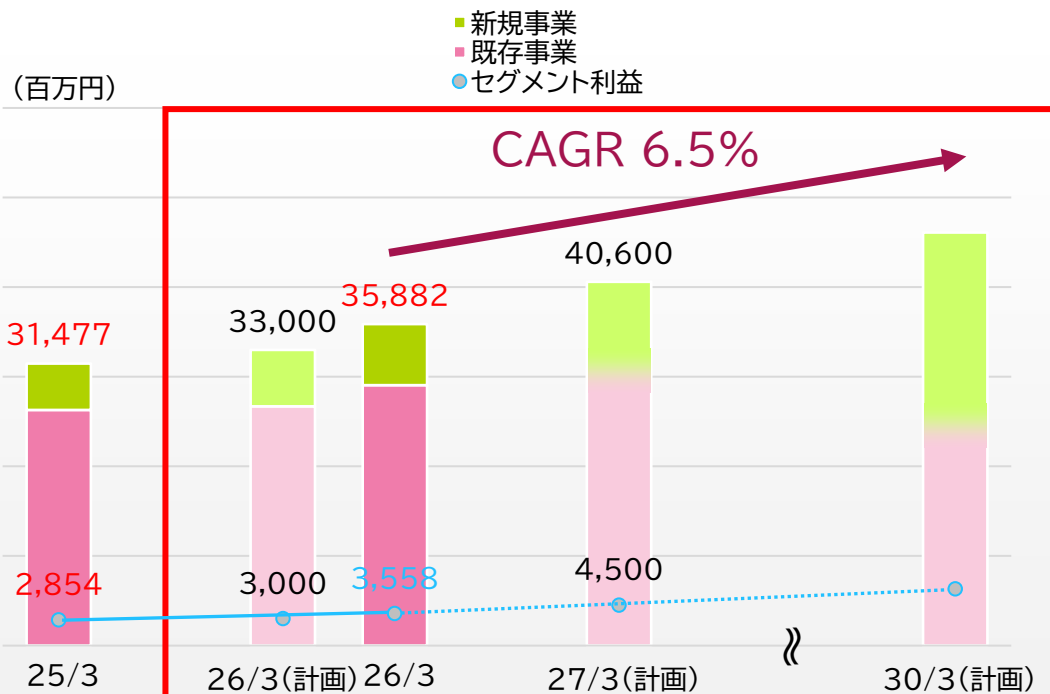
詳細を
6ページに記載

<h2>収益力の強化</h2>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 営業利益 85億円 以上

項目	取り組み	成果および今後の目標														
オープンイノベーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・当社コア技術を活かした新規顧客の獲得、新規事業の創出 ・顧客と開発初期段階から共創し、早期量産化の実現 ・パートナーとの技術連携による新規事業の創出 ・イノベーションセンターを拠点とし産学連携による次世代材料・プロセスの開発 	 <p>新規顧客 獲得 2社 新規テーマ 着手 8件 (25/9~26/3)</p>														
知的財産戦略の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・オープン&クローズ戦略による特許出願、権利化の促進 ・事業戦略と連動した知財戦略のポートフォリオ構築 ・知的財産を活用し、用途展開による新規事業の創出 ・知財リスク低減による事業運営の安定化 	<p>守りから攻めへの特許戦略</p> <p>国内特許出願件数</p>  <table border="1"> <caption>国内特許出願件数</caption> <thead> <tr> <th>期</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23/3</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>24/3</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>25/3</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>26/3</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>27/3</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>31/3</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>	期	件数	23/3	6	24/3	8	25/3	7	26/3	11	27/3	20	31/3	50
期	件数															
23/3	6															
24/3	8															
25/3	7															
26/3	11															
27/3	20															
31/3	50															
グループ会社との協働強化	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内技術・製品・生産ノウハウの相互活用 ・生産・開発機能の役割分担と最適配置 ・国内外グループ拠点の資材調達・営業・販売網活用 ・グループ会社との共同開発・共同提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループシナジーによる収益力の底上げ ・ROICの改善 ・持続的成長を支える事業基盤構築 														

III-2-1 電子材料セグメント

売上高



想定される市場

- ・半導体分野、モバイル通信端末では、AIの普及・拡大により、高速通信材料の需要が拡大する
- ・モビリティ分野では、電動化の進展により、高放熱・大電流材料が普及する

26/3の総括

- ・AIの普及・拡大に伴い半導体関連の事業は好調に推移
- ・スマートフォン関連では差異化製品の採用が進み、当社シェアは伸長
- ・次世代コンピューティング・次世代モビリティをターゲットとした製品開発は計画通りに進行中

27/3の取り組み

既存事業

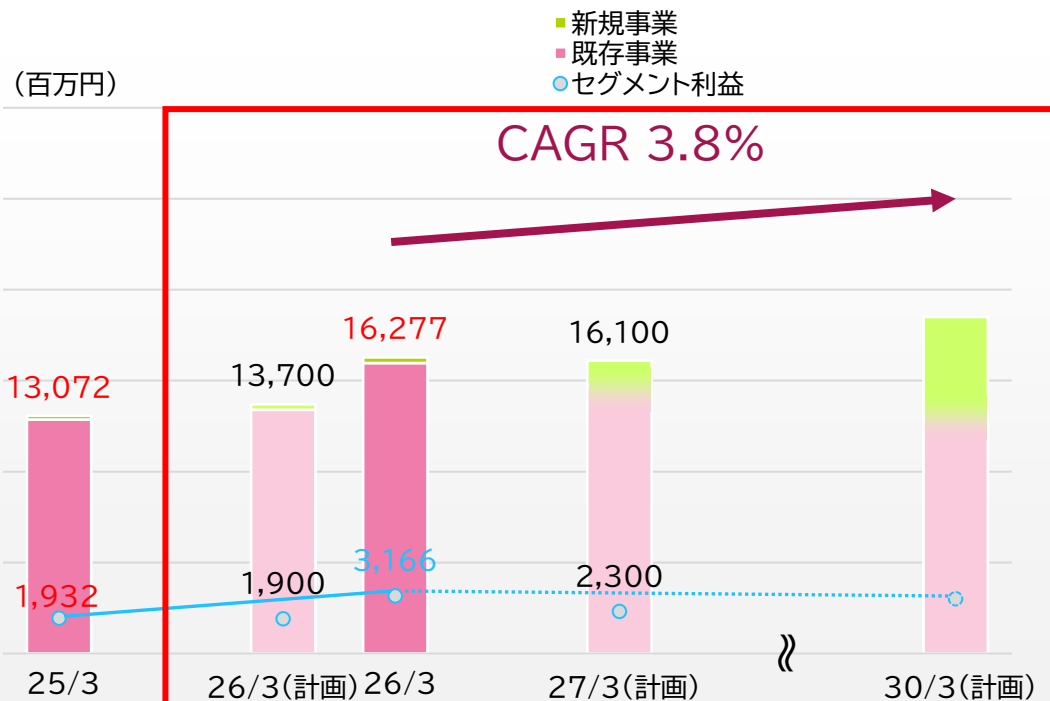
- ・AI半導体／AIサーバー
持続する需要拡大に合わせて生産能力の増強を推進する
- ・モバイル通信端末
薄膜・高信頼性の製品群を新用途に展開しシェア拡大を図る

新規事業

- ・次世代コンピューティング
各社で採用が進む高速通信用途向け製品を拡販する
- ・次世代モビリティ
高放熱・大電流対応製品の開発完了、早期市場投入を促進する

III-2-2 産業用構造材料・電気絶縁材料セグメント

売上高



想定される市場

- ・モビリティ分野では電動化により、電池の高性能化と構造体を軽量化する材料の採用が進む
- ・脱炭素化に向けて水素エネルギーをはじめとする次世代エネルギーの普及が本格化する

26/3の総括

- ・水処理プラントにおけるFRP製圧力容器の需要が堅調に推移
- ・旅客機需要の増加を背景に航空機内装材の需要が回復
- ・次世代電池用材料は本格採用に向け計画通りに進捗
- ・燃料電池用材料は後継モデル採用に向けた検討を開始

27/3の取り組み

既存事業

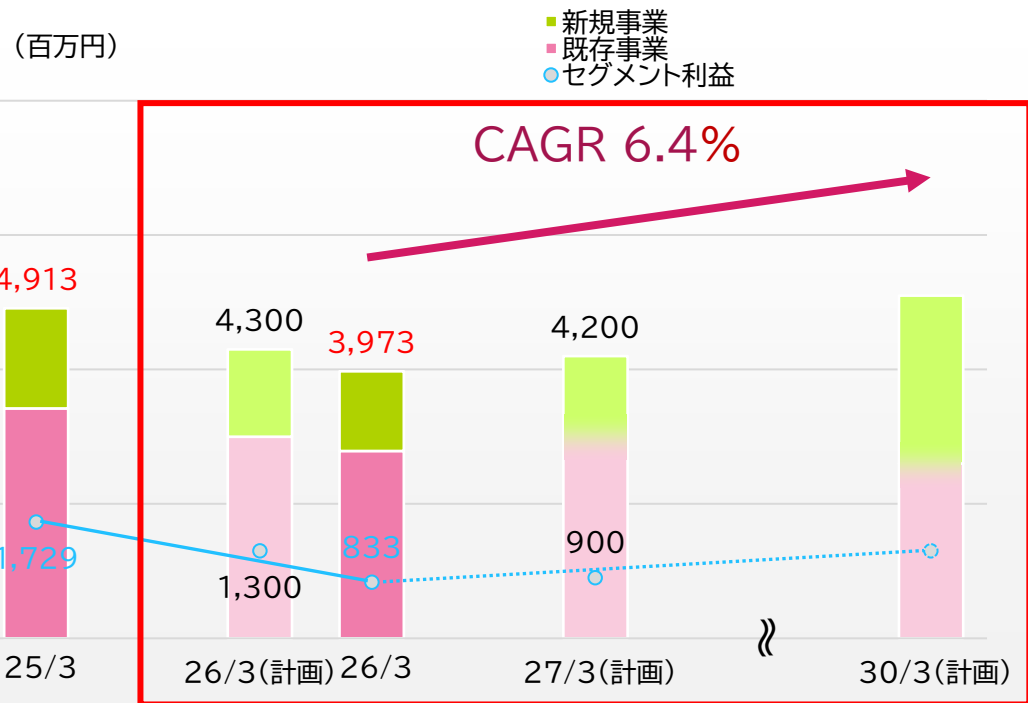
- ・水処理プラント
グループ会社製品を国内顧客向けに拡販する
- ・航空機内装材
安定供給に向け生産能力を増強する

新規事業

- ・次世代電池／水素エネルギー
高性能・高耐久材料の開発を推進する
各種機能材料の技術提案を拡充する
- ・環境配慮型製品
航空機内装材の新規用途における認定取得を推進する

III-2-3 ディスプレイ材料セグメント

売上高



想定される市場

- ・医療分野では、医療の高度化、遠隔治療の普及に伴い高機能ディスプレイの需要が拡大する
- ・産業分野、科学研究分野で偏光利用部材の活用案件が増加する

26/3の総括

- ・医療機器用途は、市場での在庫調整が終了し下期より堅調に推移
大型化の3D貼合ニーズを取り込み、新規用途の開発に着手
- ・産業インフラ用途は、差異化製品の新規用途への採用を推進

27/3の取り組み

既存事業

- ・医療機器用途
大型化ディスプレイ、遠隔治療用ロボティクス、高精細OLEDディスプレイ向けに開発した3D貼合技術を活かし、需要開拓を推進する

新規事業

- ・産業用インフラ用途
建設分野への用途開発を推進し、産業用3Dディスプレイの新規需要を創出する
- ・次世代ディスプレイ用途
スマートグラス向けAR用関連材料の事業を強化する

III-3 事業セグメント別差異化製品（社会・環境問題の解決に資する事業）

成長が見込める分野に焦点を当て、差異化製品を開発する

市場	情報デバイス	次世代モビリティ	次世代エネルギー	スマートウェルネス
事業(セグメント)	IoT社会への貢献 	次世代輸送機器への貢献 	新たなエネルギーへの挑戦 	環境と人の健康への貢献 
電子材料	高速通信用FPC材料 微細配線用FPC材料 フォルダブル対応FPC材料 半導体基板用絶縁フィルム 	高放熱・大電流用FPC材料 車載モニター用高反射材料 	水素エネルギー関連材料 蓄電関連材料 	医療用機器用FPC材料 
産業用構造材料 電気絶縁材料	高速通信用ガラスクロス材料 	車載電池関連材料 高出力モーター関連材料 軽量化構造材料 	水素エネルギー関連材料 蓄電関連材料 耐放射線用絶縁材料 	飲料水・工場水処理用材料 CO2分離用材料 
ディスプレイ材料	ペンタレット用透明材料 スマートグラス用光学材料 	センサー用光学材料 特殊車両用ディスプレイ材料 	耐候性透明材料 	医療機器用ディスプレイ材料 AR/VR関連材料 

赤字は新たに加わった製品群

目次

I. 基本方針	1 ~ 2
II. 中期経営計画の進捗状況	3 ~ 4
III. 事業戦略	5 ~ 10
IV. 財務戦略	11 ~ 13
V. 参考資料	14 ~ 20



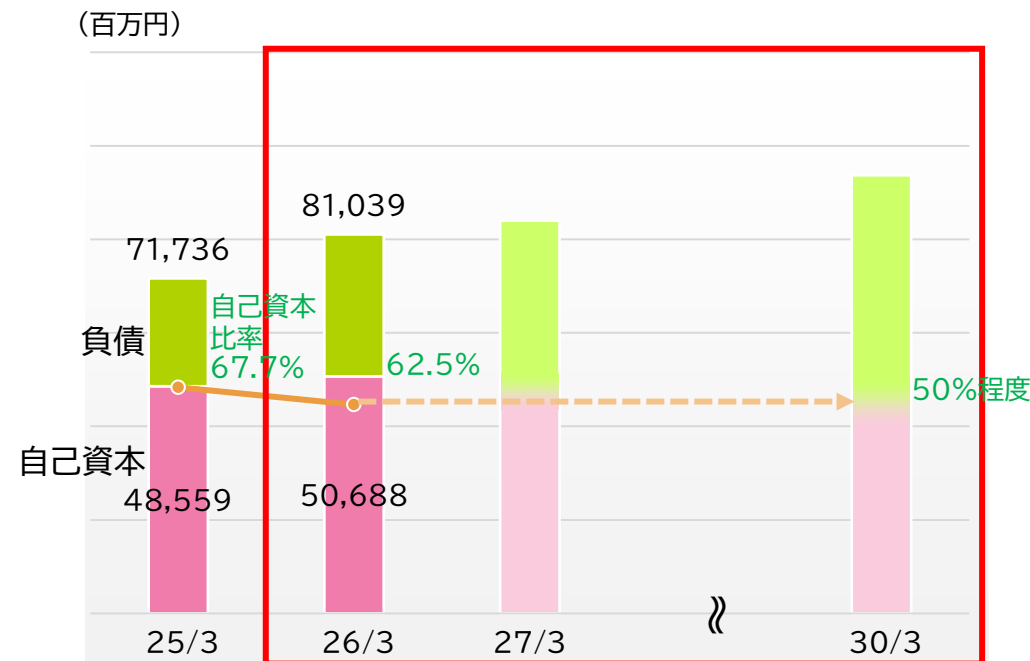
- ・将来のキャッシュフローを創出する成長投資を行う
- ・レバレッジ活用により最適資本構成を探求する

成長投資	株主還元	資本構成
<ul style="list-style-type: none"> ■ 設備投資 既存事業の深掘り 新規事業の創出 ■ M&A 既存事業とのシナジー 新規事業への展開 	<ul style="list-style-type: none"> ■ DOE 6% または 総還元性向 80% 以上のいずれか 大きい金額 ■ 機動的な自己株式 の取得 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自己資本比率 50%程度 ■ 有利子負債の活用 (直接/間接金融を 含む)



資本効率の向上
<ul style="list-style-type: none"> ■ ROIC 8% 以上 ■ ROE 10% 以上

BSの推移イメージ



..... 26/3実績 ROIC 6.8% ROE 10.1%

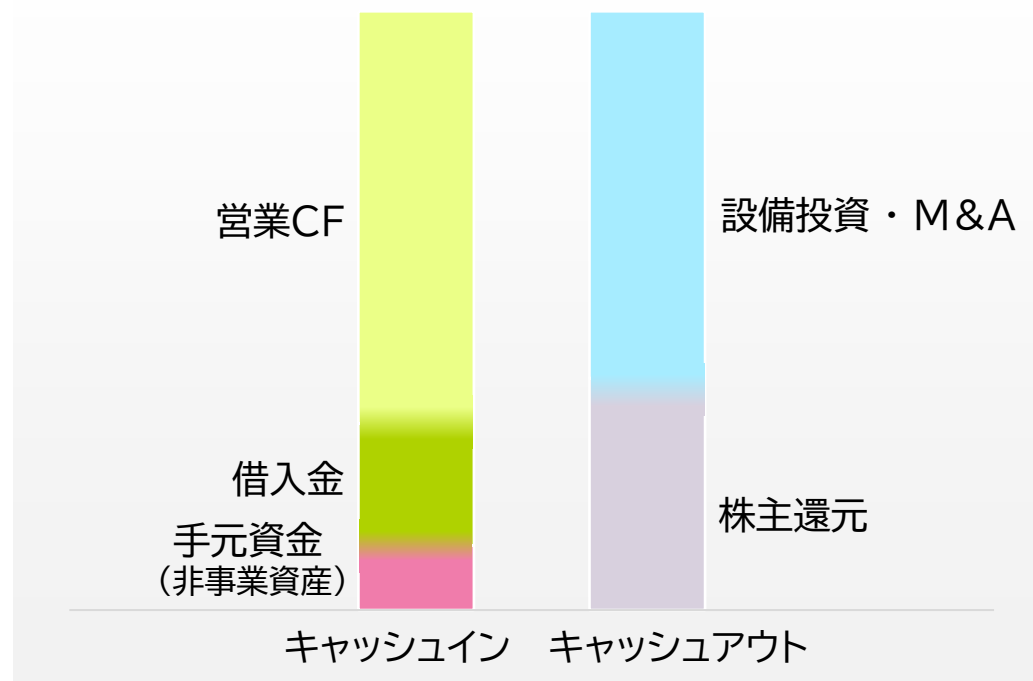
IV-2 キャッシュアロケーション

26年3月期より成長投資への資金配分を増やし、持続的な成長と資本効率の向上を目指す

- ・ 21年3月期～25年3月期は、非事業資産の資金化を進めた
- ・ 26年3月期以降は、有利子負債なども活用し、生産能力増強、新製品の事業化・量産化に資金を投じる

26/3～30/3 (5年間) 計画

460 億円

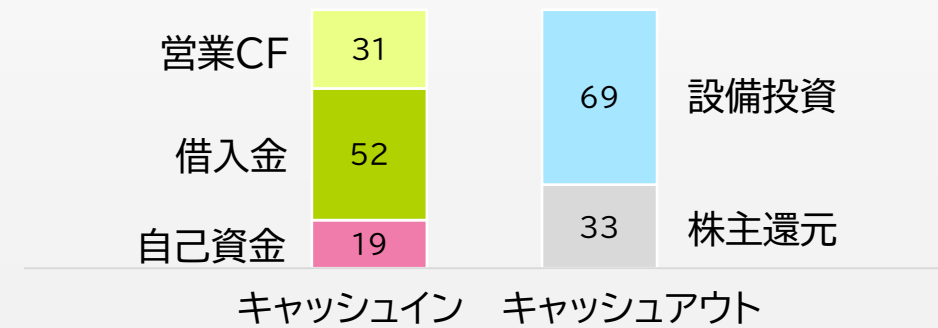


26/3 実績

総括

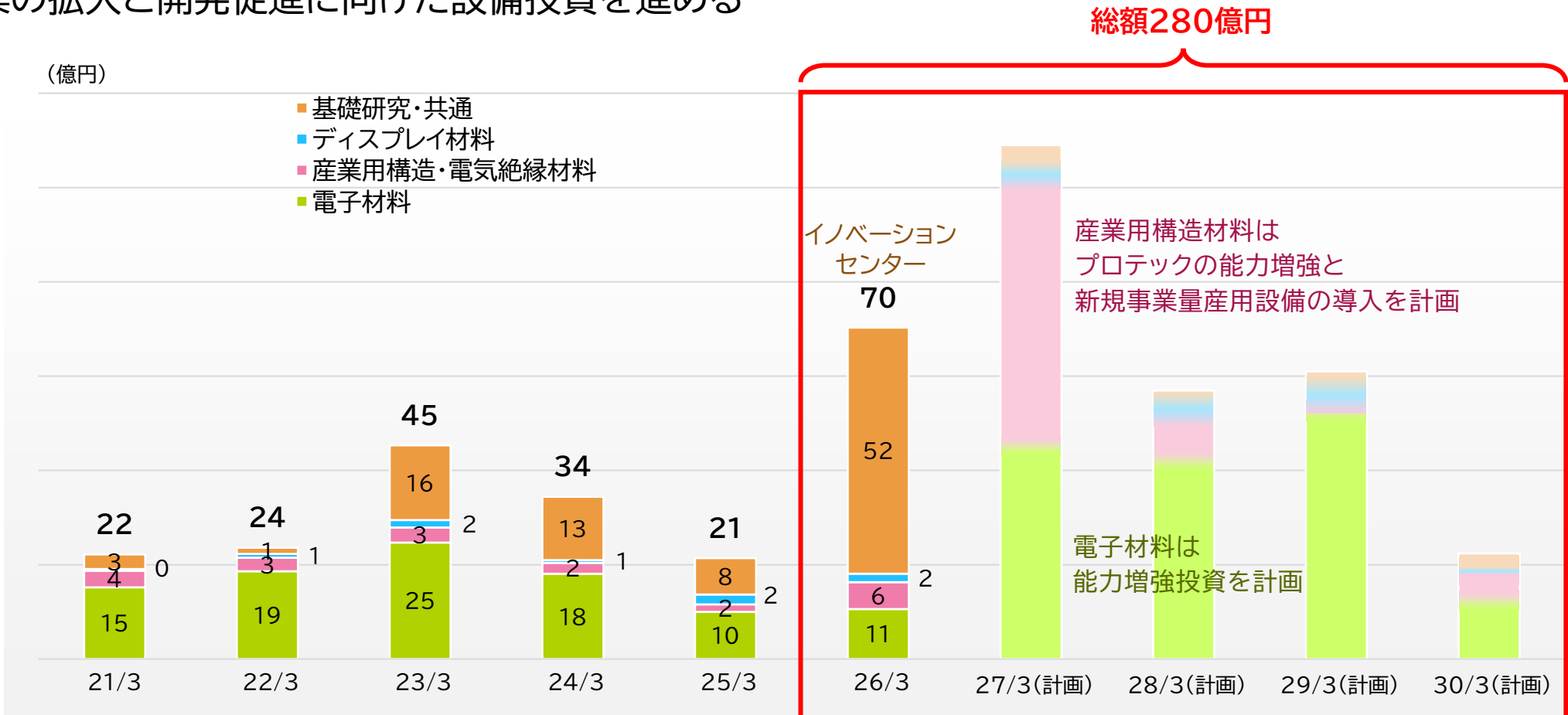
イノベーションセンター建設に加え、電子材料の能力増強投資を開始

102 億円



IV-3 設備投資（セグメント別推移）

新規事業の拡大と開発促進に向けた設備投資を進める



前中計では中長期的視点に立った研究開発投資を実施



本中計では生産能力増強ならびに新規事業への投資を計画

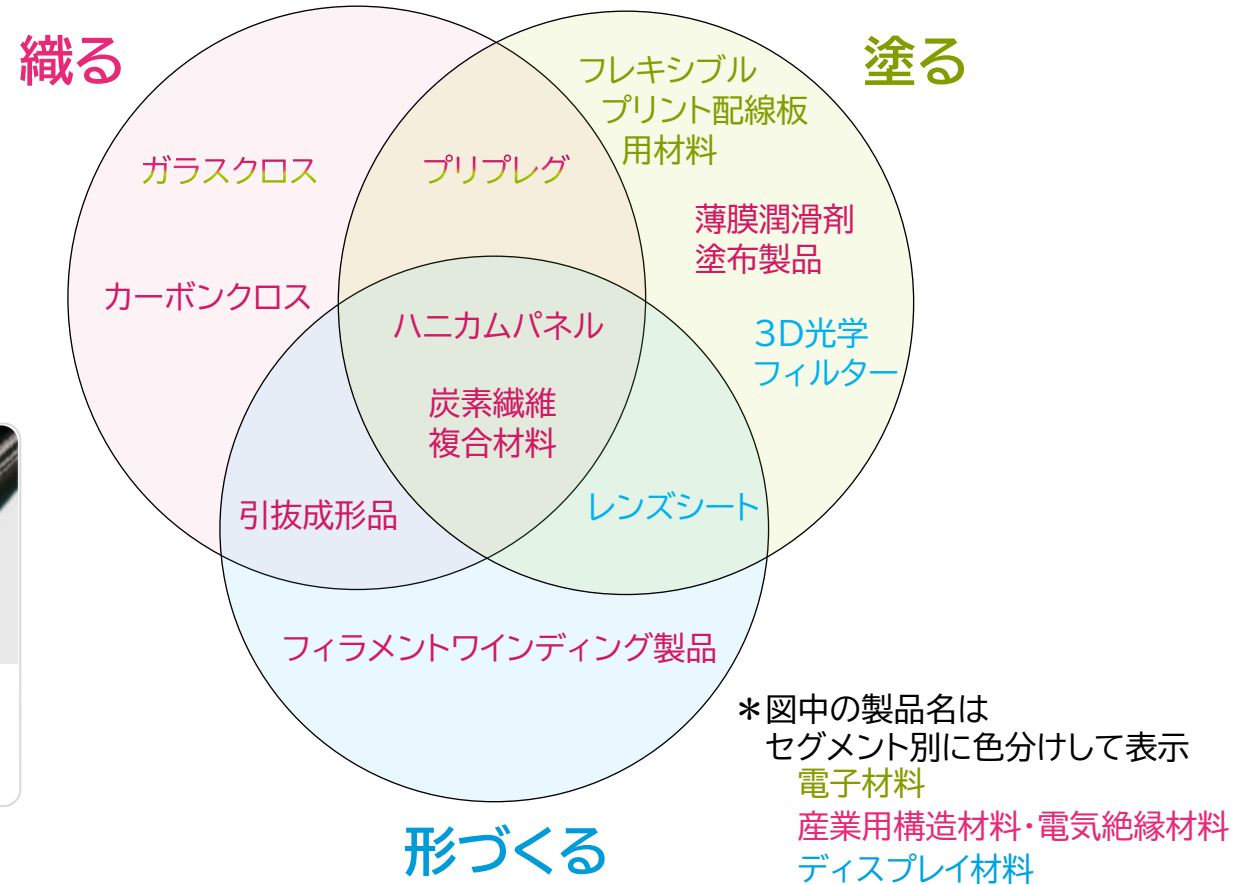
目次

I. 基本方針	1 ~ 2
II. 中期経営計画の進捗状況	3 ~ 4
III. 事業戦略	5 ~ 10
IV. 財務戦略	11 ~ 13
V. 参考資料	14 ~ 20

V-1 収益獲得の源泉となる当社の技術

「織る」「塗る」「形づくり」技術を磨き続けるとともに、それらを組み合わせる

- イノベーション出発点の「織る」技術
- 樹脂の独自開発によって、新たな機能を生み出す「塗る」技術
- FRPに最善の性能を発揮させる「形づくり」技術



差異化製品の開発により新規事業の売上比率を上げていく

既存事業
事業の深掘りと質的強化

新規事業
事業拡大と価値創造

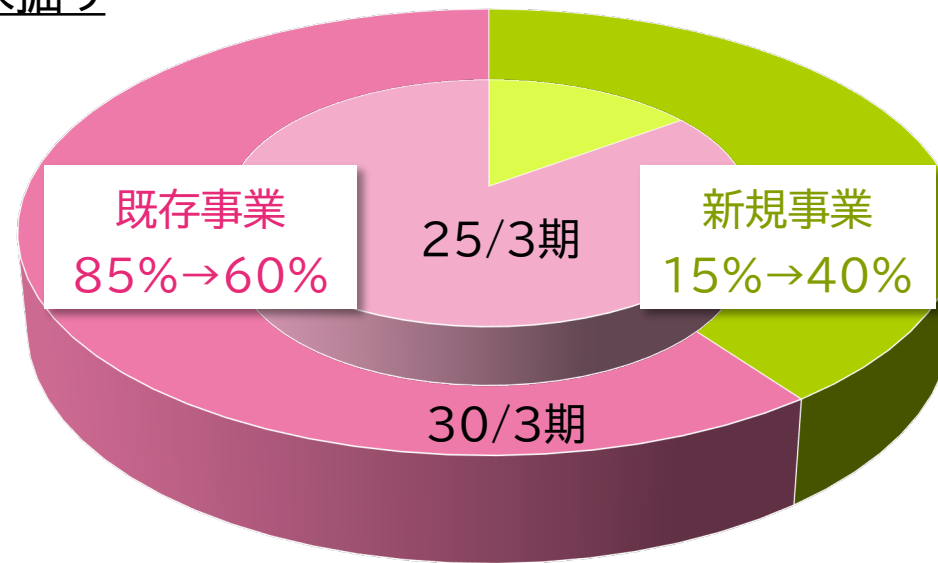
成長牽引 事業の深掘り

- AI半導体/AIサーバー
- 水処理プラント
- 産業インフラ用途

コア 質的強化

- モバイル通信端末
- 自動車用燃料電池
- 航空機内装材
- 医療機器

売上構成



ターゲット

事業拡大と価値創造

- 次世代電池
- 次世代コンピューティング
- 次世代モビリティ
- 水素エネルギー
- CO₂排出量削減に貢献する設計・ビジネス

事業戦略と財務戦略の推進に向け、個人の自律性と組織の一体感を高める

求める人材像：自ら考えCIC*を実践する人材

*「創造 Create」「革新 Innovate」「挑戦 Challenge」

エンゲージメントサーベイ説明会を通じ、会社施策を周知（'25年6月に第2回目を実施）

課題 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスの明確化 ・評価と処遇の公平性確保 ・心身の健康の維持増進 	改善に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・他部門を知る機会を提供し、キャリアプランの形成を支援する ・階層別研修の充実させるとともに、制度・組織体制の見直しを図る ・自由闊達な職場風土、衛生的で気持ちよく働ける職場づくりを目指す
--	--

動的人材ポートフォリオの整備

経営と事業をリードする人材の育成	多様な人材の獲得と育成	働きやすく、働きがいのある職場づくり
<ul style="list-style-type: none"> ■ キャリアパスの明確化、専門職掌の拡充 ■ キャリア形成支援の充実 ■ 研修の充実、多様な実務経験の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 研修の充実、人材交流機会の増加 ■ ジョブローテーションの活発化 ■ 職位登用の見直し(公正な評価・処遇) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多様性の尊重 ■ 良好な職場環境の維持 ■ システム化・DXなどによる省人化、効率向上

V-4 当社が取り組むべき課題

下記重要課題(マテリアリティ)の改善に取り組み、持続可能な成長を目指す

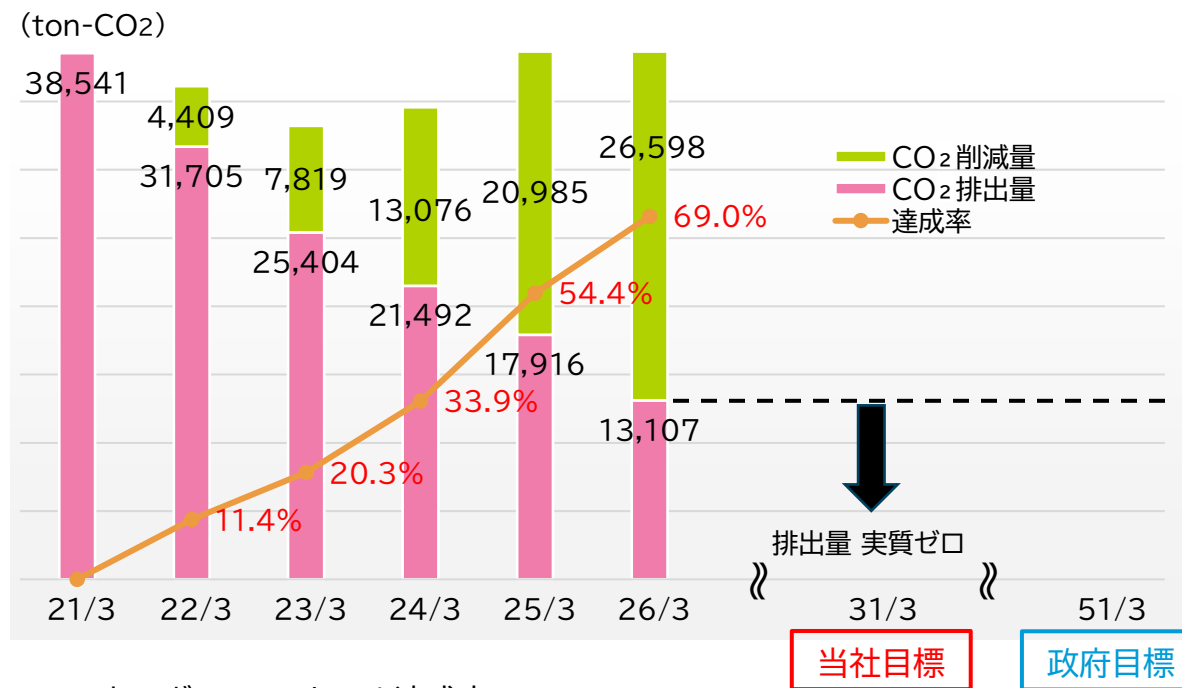
マテリアリティ	目指す姿	26/3の取り組み
脱炭素社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・30年までにカーボンニュートラルを達成 ・省エネルギー、省資源の推進 ・再生可能エネルギーへの代替 ・環境負荷低減材料の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラル化達成率69.0% ・塗工機に廃熱回収装置設置、空調更新 ・25年度購入量:電気2,958万kWh、COガス*250万m³ ・既存量製品の生産エネルギー低減、Eco新製品の開発
多様な人材の育成 働きがいの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の自律性と組織の一体感向上 ・次世代を担う人材の育成 ・全ての社員が生き生きと働ける会社 	<ul style="list-style-type: none"> ・エンゲージメントサーベイ説明会を通じ、会社施策を周知 ・社長/女性社員、社外取締役/幹部社員の対話の機会提供 ・専門職の拡充
循環型経済の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・排出物の削減 ・リサイクルの推進 ・持続可能なサプライチェーンの構築 ・化学物質の安全性確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・FRP製品の端材削減 ・ガラスくず・塩ビ材料などのリサイクルを開始 ・人権方針・CSR調達方針の制定、CSRアンケートの開始 ・化学物質のデータベース・管理システムの運用
ガバナンスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・高い倫理観のある組織 ・リスクマネジメントの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外グループ会社の業務監査の実施 ・BCP訓練、情報セキュリティシステムの質的向上

*カーボン・オフセット都市ガス

V-5 社会・環境課題への取り組み

カーボンニュートラル

31年3月期 カーボンニュートラルの達成に向け
計画を上回るペースで進行中



カーボンニュートラル達成率 = (再エネ・創エネ・低炭素製品・エネ利用効率の合計) / 21年3月期 CO₂排出量

持続可能なサプライチェーンの構築と 排出物削減

サプライヤーと共にCSR活動に取り組む

- 仕入先へのCSR調達方針の周知
- 2050年ゼロエミッションの達成
- リサイクルの推進

社会との共生

人々の豊かな暮らしへ貢献する

- AI、通信端末、モビリティ、次世代エネルギー、医療など幅広い製品提供分野

地域に根差した社会活動を展開し、
ブランド力を高める

- 単体純利益の0.5%を社会に還元
- 自然環境への配慮

「社会・環境課題への取り組み」の詳細については、統合報告書を参照 [有沢製作所 統合報告書 2025](#)

V-6 コーポレートガバナンス

中期経営計画の達成に必要なスキルを備え、多様性に富む取締役会の構成で、企業価値の最大化に向け、ガバナンスの強化に取り組む

(単位:人)

期	取締役			監査役		執行役員			主な実施項目
	社内男性	社外男性	社外女性	社内男性	社外男性	社内男性	社内女性	取締役兼務者	
21/3	4	3		1	2	11		(4)	・取締役会実効性の第三者機関による評価 ・電磁的方式による議決権行使の導入
22/3	4	4	1	1	2	11		(4)	・取締役への株式報酬をストックオプションから譲渡制限付株式報酬に変更
23/3	4	4	1	1	2	11	1	(4)	
24/3	4	3	2	1	2	10	1	(4)	
25/3	4	3	2	1	2	11	2	(4)	
26/3	4	3	2	1	2	12	3	(4)	・社外取締役に譲渡制限付株主報酬を支給

今後強化すべき取り組み

- グループ会社の経営に関する議論の拡充
- リスクマネジメントの強化に関する取り組み

スキルの構成内訳

(数字は該当人数、母数は12名)

企業経営	事業戦略 マーケティング	研究開発 技術戦略	財務・会計 金融市場	人事・労務 人材開発	法務 リスク管理	国際経験
7	5	3	6	4	3	7

「スキルマトリックス」の詳細については、
統合報告書を参照

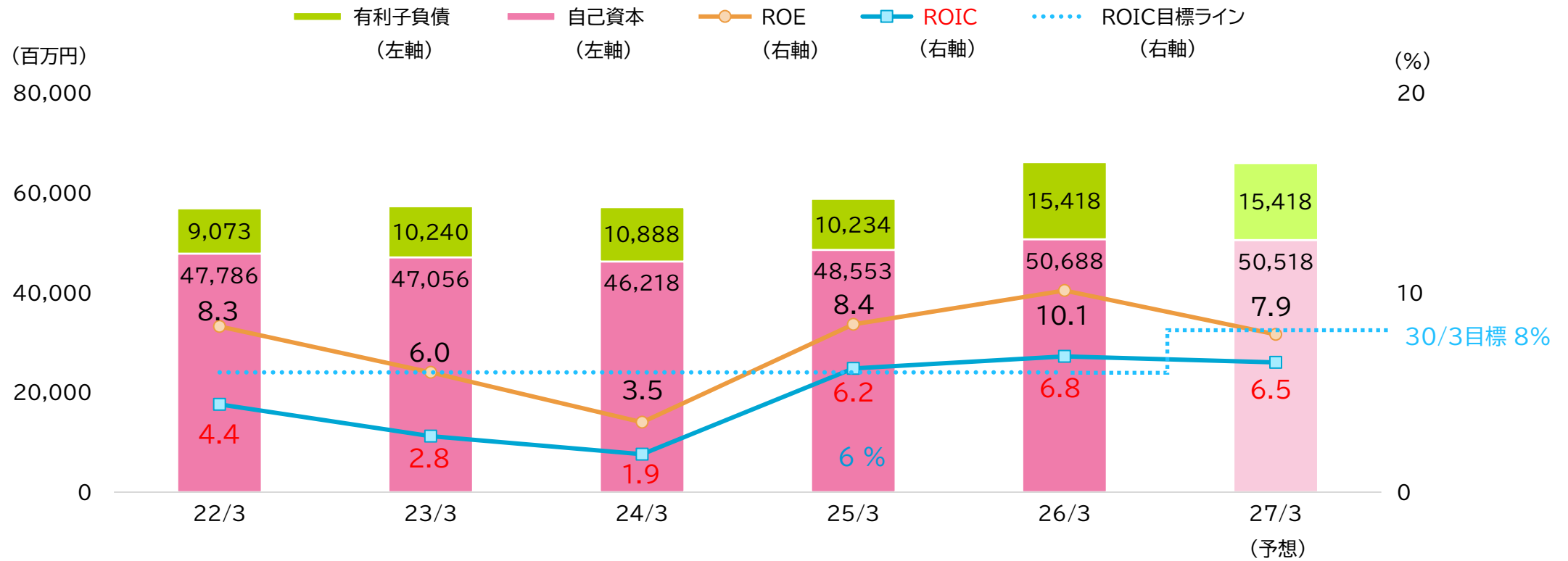
[有沢製作所 統合報告書 2025](#)

V-7 ROE・ROICの推移



ROE = 当期純利益 / 自己資本

ROIC = 税引き後営業利益 / (自己資本 + 有利子負債)



本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、経済情勢や市場動向の変化などの理由により修正する可能性を含みます。

従いまして本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。投資に関する最終決定はご自身の責任においてご判断ください。

